

# 川崎医療短期大学 広報誌 No.104

**特集** 座談会：川崎医療短期大学の思い出、  
そしてこれからへの期待と思い

- 担任から卒業生へ
- 栄えある受賞者／学生表彰／あした彩
- Best Activity Award／学友会新役員紹介
- 医療保育科 オペレッタ
- 研究発表会・実習事例報告会
- FD・SD委員会報告／川崎エコアクション  
日本語に関する取り組み／新任職員紹介
- インフォメーション

# ふ き の ち



## 特集

# 川崎医療短期大学の思い出、そしてこれからへの期待と思い

今年の4月から臨床検査科、放射線技術科、医療保育科は川崎医療福祉大学に移行し、本学は看護科と医療介護福祉科の2学科となります。今回の特集では、それを機に、本学教職員の座談会を開催しました。



**森本（一般教養、司会）** 本日はお忙しいなか、お集まりいただきありがとうございます。この春、川崎医療短期大学は新たな節目を迎えることとなります。この機会に、全学科と一般教養、事務部の教職員にお集まりいただき、本学での思い出、そしてこれからの本学に期待すること、また本学への思いを語っていただくことにしました。

## 印象に残っている学生のエピソード

**森本** それでは、まず最も印象に残っている学生のエピソードをお教えてください。

**天野（放射線技術科）** 卒業式での学生の様子が思い出として残っています。以前は式の終盤に学歌だけでなく「仰げば尊し」を歌ってから退場していました。そのときに、これまでの思いが沸き上がった学生が、泣きながら退場していく姿が最も印象的な思い出として残っています。

**名木田（副学長、一般教養）** 昔は学生が退場するときに、教職員が学生の列に駆け寄り、両側から挟んで「おめでとう！」と声を掛けていました。学生も余計に気持ちが盛り上がったのではないのでしょうか。

**青井（医療保育科）** 学生が一人ずつ退場していきますよね。私が教職に就いたのは本学が初めてだったので、学生の顔を見ると、その学生との3年間の思い出が思い出されて、こちらも涙が出たことがあります。

**山田（医療介護福祉科）** 医療介護福祉科では卒業式が終わったあとに、皆で集まって、先生が学生にメッセージを送ります。前任校ではそのようなことはなかったので、そういったアットホームな感じの交流があるのは素晴らしいと思います。

**永瀬（臨床検査科）** 私は卒業式で臨床検査科の学生が涙ながらに答辞を読んだことが印象的でした。学生寮での生活体験や、実習でクラスメートと助け合ったりしたことをふまえた内容で、こちらまでもらい泣きしてしまう感動的な答辞でした。

**森本** 卒業に関すること以外で、心に残るエピソードはないのでしょうか。

**阿部（看護科）** 私は小児看護を担当しています。看護科には1学年、約140人の学生がいるので実習指導は大変ですが、実習では不安ながらも学生一人ひとりが入院している子どもと一生懸命関わってくれます。それを見て、頼もしく思うこともたくさんあります。



ある女子学生の一人が実習前に、子どもの過酷な治療状況を見たら倒れてしまうかもしれない、と不安を漏らしたことがありました。実習後、どうだったかと学生に声を掛けたところ、「治療を受けて泣いている子どもを見たら、自分が倒れているところではないと思って『頑張ろうね!』と最後まで手を握り、声を掛けることができました」と話してくれました。期待以上の姿を見せてくれた学生の様子に感激したことを憶えています。

**森本** 実習で学生は患者さんの現実と直面しますよね。でも、そのおかげで、指導する側が想像する以上に、色々なことを感じ取れるのかもしれない。

### 教職員として充実感を覚えたときのエピソード

**森本** それでは次に、教職員として充実感を覚えたエピソードはありますか。

**青井** 私は医療保育科で音楽を担当しています。私の学科では、新入生オリエンテーションのときから学歌「若きいのち」を歌う練習をします。平成23年度の入学式からは2年生が入学式に参列して学歌を斉唱するようになり、今や医療保育科の伝統になっています。先日、医療保育科の改組を記念した大同窓会で学歌を歌う機会がありました。すると、1期生もちゃんと憶えていて、楽譜を見ずに歌えたのです。学歌を歌う卒業生の表情から本学への思いを感じることができ、とてもうれしく思いました。今回の改組に伴い、来年度からは入学式に参列できなくなります。しかし、平成28年度には当時の2年生が斉唱する学歌をCDに録音させていただいたので、これからも形を変えて歌い継いでいけることを、医療保育科としても誇りに思います。

**阿部** 看護科教員でなければ経験できない醍醐味もあります。その一つが、病院実習での指導を通して学生の変化に立ち会えることです。学内で指導してもほとんど変わらなかった学生も、3年生で実習に出て患者さんと関わり、患者さんのために一生懸命考えて看護を実践していくことで、見違えるように人として成長していきます。学生の「看護師になるぞというスイッチ」が入ったときの表情を見たときや、また教員のちょっとした助言が学生のさまざまな変化につながることを実感したとき、教員になってよかったと思います。

**森本** 今日は事務部の池田さんにも来ていただいています。

**池田(事務部)** 学生と関連したエピソードではありませんが、本学の充実している点として、構内で梅や桜の花が咲き、

<sup>たけのこ</sup> 筍や梅の実も収穫できるほど自然が豊かなことが挙げられると思います。

**山田** 医療介護福祉科は、卒業生がよく学科の準備室を訪れて、介護の現場で頑張っていることを話してくれます。介護福祉士として花開いているのが分かって、感動します。

**名木田** 看護科も卒業生が頻繁に戻って来ていませんか。構内で見かけて声を掛けると、「今日は仕事が休みなので来ました」と返事をしてくれることがあります。たまの休み、外に遊びに行くことはあっても大学に来るのかなと思うのです。

**阿部** 夜勤明けでも来てくれるときがあります。

**森本** そうやって卒業生が仕事の合間に訪ねてくれると、本学への愛着が分かってうれしいです。本学の教育の成果の反映とも考えられますね。教員としての充実感を覚えます。

**名木田** そういえば、私のような「専門外」の教員にも、卒業生が声を掛けてくれます。名前が珍しいので覚えていているのかもしれない。この前、ある病院で自分の名前を問診票に書いたあと、看護師さんに「名木田先生ではありませんか」と声を掛けられました。お話しすると、20年前の卒業生ということが分かり、とてもうれしかったです。

また、東京での学生支援研修会でも、看護科の卒業生が参加者名簿のなかで私の名前を見たと言って、探してきてくれたことがあります。彼女も20数年前の卒業生でした。本学で研鑽<sup>けんさん</sup>を積んだことを長い年月が経った今でも憶えていてくれていたことに感銘を受けました。

**永瀬** 学生は病院実習でもしっかりと患者さんに寄り添ってくれます。学年が上がるごとにどんどんと成長していくのがよく分かります。卒業研究のときも学生が前向きに取り組む様子は、私も励みになります。先日、香川県で学会に参加していたら、会場で卒業生が「先ほど頑張って学会発表を済ませたばかりです」と声を掛けにきてくれました。



名木田先生と天野先生

本学で学んだ技術と知識を生かして、臨床検査技師として研究を続けている姿に、とてもうれしくなりました。

**森本** 放射線技術科は卒業研究のレベルが非常に高いように思います。いつも卒業研究発表会の資料を頂戴しますが、素晴らしい内容です。

**天野** 卒業研究は3年生の一大イベントなので、学生は一生懸命やります。また、教員はかなり時間を割いて指導します。教員が充実していると感じるタイミングでもありますが、学生が一番充実感を覚えているのではないのでしょうか。

**名木田** このテーマと関連してお話ししたいことが二つあります。一つは、川崎医療短期大学は親子、兄弟で入学してくる人が多いことです。例えば母親が卒業生で、そのお子さんが入学してくるケースがあります。本学への信頼があるってのことと思います。

**森本** 今年の看護科の1年生に、母親も看護科出身であることを教えてくれた学生がいました。その学生は鹿児島県出身とのことでした。岡山県から離れた地域にあっても、本学への信頼が親から子へと受け継がれていることを実感しました。

**名木田** もう一つは、学内でのお付き合いから始まって結婚に至った人が少なくないことです。私は医療系ではない大学の出身ですが、本学のようなことはあまりありませんでした。学内での仲間意識が強いのでしょうか。

**森本** そのようなエピソードは、同世代の横のつながりも、世代を超えた縦のつながりも強いという、本学の魅力を示してくれています。

### 本学の伝統を未来につないでいくために 看護科、医療介護福祉科に期待すること

**森本** 本学の思い出は尽きないのですが、またテーマを変えさせていただきます。

来年度から本学は看護科と医療介護福祉科のみになります。本学のこれまでの伝統を将来に向かってつなげていくために、他の教職員の方々にはこの2学科に向けたメッセージをいただけますか。

**天野** 本学の伝統は「きめ細やかな教育」だと思います。そういった教育力を失うことなく今後も頑張りたいと思います。また、昔から教職員の仲が非常に良いので、学科を超えた教員間の連携の良さ、そして事務部との連携の良

さを残していただきたいですね。これまでどおり、アットホームな感じで頑張りたいと思います。

**永瀬** 本学では、しっかりとした理念と情熱を持って学生に寄り添う教育をしています。看護科も医療介護福祉科も、そのような素晴らしい伝統を引き継いでいただきたいと願っています。

人としての思いやりや温かさを伝えるのは、AI（人工知能）が進歩してもなし得ないところです。しかし、先生方の情熱はそれを可能にします。将来の医療と福祉に学生が貢献できるよう愛情を持って教育をしていただけたなら、私たちにも励みになります。これからも一緒に学生教育に尽力したいと思います。

**青井** 私も天野先生、永瀬先生の言われたことと全く同じ考えです。本学の教職員は互いに距離が近いですし、教員と学生の距離もとても近く、学生の一人ひとりに寄り添う教育がなされていると思います。先生方の気持ちも学生に伝わって、技術だけではなく、心ある医療・福祉人が養成されていると思います。ぜひ、そういう良さをこれからもずっと継承してほしいと思います。



### これからの本学への思い —医療短大に残る教員から—

**森本** それでは最後に、これから医療短期大学を担う看護科と医療介護福祉科、そして一般教養と事務部の教職員に、本学のこれからのについてお話しいただければと思います。

**山田** 本学の伝統である教育力は、これからも保持していきたいと考えます。医療介護福祉科は他学科と比較しても教員と学生との距離が非常に近く、学生は在籍する2年間で大きく成長すると思います。このような教育力はこれからも大切にしていきたいと考えます。

介護福祉士を取り巻く状況は大きく変化し、最近では、医療に強い介護福祉士が求められるようになってきました。

座談会参加者プロフィール紹介

 <p><b>看護科</b> 阿部 裕美 先生 在職年数 12年 専門分野 小児看護</p>	 <p><b>臨床検査科</b> 永瀬 澄香 先生 在職年数 33年 専門分野 臨床化学</p>	 <p><b>放射線技術科</b> 天野 貴司 先生 在職年数 29年 専門分野 画像工学</p>	 <p><b>医療介護福祉科</b> 山田 順子 先生 在職年数 6年 専門分野 社会福祉学</p>
 <p><b>医療保育科</b> 青井 則子 先生 在職年数 14年 専門分野 音楽</p>	 <p><b>一般教養</b> 名木田 恵理子 先生 在職年数 41年 専門分野 英語</p>	 <p><b>事務部庶務課</b> 池田 貴子 さん 在職年数 17年</p>	 <p><b>一般教養</b> 森本 寛訓 先生 在職年数 13年 専門分野 心理学</p>

伝統的教育力を生かして、これに応えていきたいと思えます。さらに、卒後教育なども充実させられるよう学科として努めていく予定です。

**阿部** 教育力に代表される本学の伝統や培ってきた精神を受け継ぎ、発展させていきたいと思えます。

本学は教員と学生の距離が非常に近く、教員に本学の卒業生が多いのも特徴だと思えます。近距離で先生方の細やかな指導を受けた学生が、その後、学科の教員となっていく。このような慣例は本学の伝統を支える要因になっていると思えます。

ただし、学生の個性が多様化している現状において、学生指導には修正が必要になると思えます。今後2学科のみとなり、業務量が増えることを想定するとなおさらです。学生としっかりとコミュニケーションを取りつつ効果的な指導を模索して、学生にとってより安心できる魅力的な大学にしていきたいことが大切であると思えます。

**池田** 短期大学という小規模校ならではの特性を生かして、教職員と学生が協働で物事に取り組んでいけたらよいと思えます。また、学歌「若きいのち」を学生と共に、これか

らも大切に歌い継いでいければと思えます。

**名木田** 教育力や、本学が伝統的に持ち続けてきた学生に対する姿勢はこれからも大切にしたいと思えます。ただ、先ほど阿部先生が言われたように、これからは2学科のみになり、本学はまさに変革の時期にあります。このような時期にこそ、教職員の考え方も変革していかなければなりません。

良い伝統は残すべきですが、伝統に固執して新しく考えることをせず、従来通りの教育形式で満足しては先細ってしまうでしょう。これからは教職員一人ひとりが「こんなこともできるのではないかな。こういうことができるはずだ」という主体的態度を持ち、新しい体制の「開拓者」となって進んでいきたいと思えます。

**森本** ここまで、ありがとうございました。お話ししていただいた内容から、これまで本学が培ってきたもの、そして、これから本学が目指していくものが明らかになったように思えます。今春の新しい節目をきっかけにして、川崎医療短期大学がより発展していくことを祈念します。



# 担任から卒業生へ



看護科 3年担任  
林 千加子

看護科卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本学では梅の花が咲き、春うららかな季節がやってきます。皆さんは4月から、晴れて看護師として職場に立ち、また進学する人は新しい知識を習得し挑戦する日々が始まりますね。今までご家族の方々や先生方、そして指導者の支援のもとに過ごしてきたあなたたちも、これからは自立した看護師として、大きく羽ばたいていくことになります。春はそんな前途有望なあなたたちを暖かく包んでくれることでしょう。

これからは多くの困難もあるかと思いますが、これまで学んできた看護学の知識や技術を実践の場で生かし、社会人として他人に依存することなく、自分自身の責任において行動してください。臨床で立派に成長された皆さんと出会うことを楽しみにしています。



看護科 3年担任  
松本 佳代子

ご卒業おめでとうございます。

本学で過ごした3年間はいかがでしたか。毎日が楽しいことばかりではなく、苦しいときや困難なときもあったことでしょうか。しかし、それらを乗り越えることで、着実に成長することができたものと思います。4月からは晴れて看護師となり、専門職者としての生活が始まります。人と人とのつながりを大切に、現状に満足せずより良い看護を目指して常に学びを重ねてください。そして、多くの方に愛されるような看護師になってもらいたいと思います。

この3年間、担任として皆さんの近くにおいて、いろいろな刺激と大きなエネルギーを日々いただけてきました。本当にありがとうございました。今後の皆さんのご活躍を心から期待しています。



臨床検査科 3年担任  
鐵原 拓雄

ご卒業おめでとうございます。

入学当初のあどけない高校生の顔が、3年も経つと立派に見えてきました。3年間、本当にご苦労様でした。これから社会人として生活していきます。私が1年生の最初に言った「遅刻しない、挨拶をする、メモを取る、復唱する」という言葉を大切にしてください。まずは、「初心に帰る」ことを忘れずに責任ある社会人になってください。また、困難に直面したときには、SMAPの「世界に一つだけの花」の歌詞を思い出してほしいと思います。組織のなかには、メンバーそれぞれの役割があります。自分自身を見失ってしまいそうなときは、その役割を理解して、こなしていってください。そして人間的にも臨床検査技師として技術的にも成長するよう精進して、自分の居場所を見つけてください。

最後になりましたが、臨床検査科最後の学年の担任を務めることができ、とてもうれしく思います。



放射線技術科 3年担任  
天野 貴司

ご卒業おめでとうございます。

皆さんは卒業と国家試験合格を目標に、入学から今日まで一生懸命に努力してきました。努力は必ず報われるとは言いませんが、努力もせずに何かを成し遂げることはできません。皆さんは努力の証として卒業を迎えました。全員が、最後の目標である診療放射線技師のライセンスを勝ち取ってほしいと願っています。

また、大学での経験を通して、社会人としての物事に対する考え方や取り組み姿勢が養われました。精神的な成長にともない顔立ちも大人びて、風格すら感じられるようになりました。皆さんの成長を担当としてとてもうれしく思っています。

卒業してからも努力を怠らず、勉強して知識を蓄えてください。そして、高度な知識・技術をもった診療放射線技師として、社会に貢献してほしいと願っています。皆さんの活躍を期待しています。



医療介護福祉科 2年担任  
熊谷 佳余子

ご卒業おめでとうございます。

担任として、6期生の皆さんと一緒に過ごしてきました。比較のおとなしい学生が多いと言われていた6期生ですが、10月の介護実習Ⅳが終わってからは、自分の進むべき道に向かって力強く確実に歩んでいるという印象を受け、とてもうれしく思っていました。

本学で学んだ介護の知識や技術、そして社会人として大切なマナーやモラルを忘れずに、介護福祉士というプロフェッショナルとして恥ずかしくないようこれからの人生を歩んでください。また、2年間で培った「相手の想いに寄り添うこと」、つまり、どんなときも誰に対しても相手のことを気遣える優しさと笑顔を忘れないでください。皆さんのご活躍を心よりお祈りしています。



医療保育科 3年担任  
重松 孝治

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

3年生の担任として、皆さんに接する私の姿は、「せんせい」として適切なものであったでしょうか。私の言葉や表情、仕草や行動の一つひとつは、どうだったでしょうか。私自身にとって「せんせい」であることは、「先」に「生きる」者として、皆さんの指針になるように常に責任を感じ、自問自答をしながら生きることだと考えています。答えは一つではありませんし、一人ひとりによっても違うのかもしれませんが。

そして4月から皆さんの多くは、「せんせい」と呼ばれる側に立場が変わります。子どもの前に立ち、何を感じ、何を思い、何を学び、何を悩むのでしょうか。その経験と向き合いながら、ぜひ子どもたちに先を示す存在として歩んでほしいと願っています。

これからの皆さんの人生が素敵なものでありますように。

## 栄えある受賞者

平成30年度卒業証書・学位記授与式は3月15日に举行され、「学業成績優秀で、品行がすぐれ、他の学生の模範とするに価する」と認められた学生に『学長賞』と『学科賞』が贈られます。

【学長賞】全卒業生のうち、特に優れた学生であると認められた場合に表彰されます。  
【学科賞】各学科から1人が表彰されます。

### 学長賞



看護科  
鳥越 順子



臨床検査科  
矢部 和佳奈

### 学科賞



看護科  
大西 由佳



臨床検査科  
檜木 玲奈



放射線技術科  
清板 翼



医療介護福祉科  
野村 華子



医療保育科  
金井 悠華

## 学生表彰

本学では、学業や学外活動などにおいて他の模範となるような学生に対してその功績をたたえる表彰を行っています。今年も、1月24日（木）に表彰式が行われ、名木田恵理子副学長から表彰状と記念品が贈呈されました。受賞者は、成績優秀者や平成30年7月豪雨災害に際し酷暑のなかで、初期復興に尽力した看護科学生有志、医療介護福祉科1・2年生有志、医療保育科3年生80人です。

突然の災害に自分自身や家族、友人などが巻き込まれた者、通学に不自由を極めた者など、多くの学生が困難を抱えたなかで、一歩踏み出して、被災された方々に寄り添い行動した学生が大勢いたことを、医療・福祉・保育者を育成する大学として誇りに思います。



個人・団体名(学科、学年)	表彰内容
小林 由佳 (臨床検査科3年)	成績優秀および学内活動に参加
入江 梨奈 (放射線技術科3年)	第1種放射線取扱主任者試験合格
丸山 純平 (放射線技術科3年)	外部模試における優秀な成績
清板 翼 (放射線技術科3年)	外部模試における優秀な成績
看護科学生有志 西分 日菜 (1年)、中妻 杏美優 (2年)、太田 里奈、黒川 愛也香、佐藤 美穂、前畑 朱里、山口 実結、阿部 由依、遠藤 佳奈、加賀 麻里菜 (3年)	平成30年7月豪雨災害に伴うボランティアによる貢献
医療介護福祉科1・2年生有志 (1年13人、2年4人) 代表：志茂 夏海 (1年)	平成30年7月豪雨災害に伴う介護ボランティアによる貢献
医療保育科3年80人 代表：梶田 紗希、白髪 有佳	平成30年7月豪雨災害に伴う託児ボランティアによる貢献
ソフトボール部 (部員15人) 部長：細川 祐輔	地域交流



### 犯罪被害者に寄り添う活動に県警から感謝状

去る1月29日（火）に岡山県警本部警務部県民応接課から、犯罪被害者支援大学生ボランティア連絡会「あした彩（岡山県下11大学の学生が所属）」の活動に協力して犯罪被害者も加害者も出さない街づくりに貢献したことに対し、本学に感謝状が贈られました。



## Best Activity Award

### 特色ある活動によって教育・研究・学内外活動に 顕著な成果を上げた教員及び教職員チーム(グループ)に対する顕彰

本学では、平成28年度から「教員活動評価」を実施し、教員の昇任等の参考にしています。これに合わせて、教員のモチベーションを高め、教育・研究・学内外活動を促進するため、教員活動評価において高い評価を得た教員を顕彰することになりました。顕彰は、原則として前年度の教員活動評価をもとに行われますが、今年度は改組の3学科の教員も対象となるため、過去の実績も踏まえて評価されました。

学科主任および関係委員会の委員長によって構成された顕彰選考委員会での審議を経て、以下の方々が顕彰されることになり、学長から賞状および副賞が贈呈されました。来年度は若い教職員が意欲的に活動し本顕彰を受けることを期待しています。



放射線技術科  
原内 一 特任教授

平成22年度大学教育・学生支援推進事業：大学教育推進プログラム(GP)の獲得に中心的役割を果たし、爾来、GPA、eポートフォリオ、動画eラーニング等数々の教育システムを開発・導入してきたことを評価。



医療保育科  
重松 孝治 講師

発達障害児保育実習の担当者として学生の教育に大きな役割を果たすとともに、障害児保育の研修会・講演会において講師を務めるなど社会的貢献が顕著であることを評価。



臨床検査科  
近末 久美子 特任教授

主任が医科大学を兼務している学科の副主任として、長年にわたり学科の実質的運営および学生の教育に大きな役割を果たしてきたことを評価。



放射線技術科  
荒尾 信一 教授



広報誌編集チーム (代表 河邊 聡子 准教授)

広報誌「若きいのち」は、広報誌編集委員会のメンバーによる企画・編集で年4回発行されており、教職員、学生等への情報提供のみならず、入試広報としても重要な役割を担ってきた。チームの力を発揮して毎号新しい特集を企画、読みやすい誌面を工夫し、昨年3月は第100号という記念すべき刊行を果たしたことを評価。

## 学友会 新役員紹介



■ 学友会委員長  
■ 看護科 1年  
■ 佐藤 涼香

皆さん、こんにちは。学友会委員長を務めることになりました佐藤 涼香です。まだまだ慣れないことが多く不安もありますが、精いっぱい頑張りますので、温かく見守っていただくと幸いです。1年間よろしくお願いたします。

昨年の学園祭終了後に先輩方から役員を引き継ぎ、新体制で学友会を運営しています。引き継いだ当初は分からないことが多く不安なことばかりでした。しかし、昨年12月のクリスマス会では、問題点や課題もありましたが、全員で協力しあい成功させることができました。

現在は来年度の学園祭に向けて、計画を練っているところです。本学の学生だけでなく来てくださるすべての方が楽しめるものにしていきたいと思っています。

学友会一同、学生の良き見本となるよう努力していきますので、皆様のご協力をお願いいたします。



▲学友会新役員



# 医療保育科 第12回 オペレッタ 発表会



2月2日（土）に、川崎医療福祉大学2601大講義室にて、医療保育科第12回オペレッタ発表会を行いました。このオペレッタ発表会は、幼児から小学校低学年の子どもたちが楽しめる内容で毎年行っています。今回は、「オペレッタ」「ミュージカル」「音楽発表」「ヒーローショー」というプログラムで開催しました。当日は学園内外から413人のご参加をいただき、大盛況のうちに終えることができました。

医療保育科では、あらゆる子どものさまざまな表現活動を豊かにし、それを楽しむことができる保育者育成の一環として、3年生の必修科目「総合表現Ⅰ・Ⅱ」のなかでオペレッタ制作に毎年取り組んでいます。この授業は、言語活動や音楽表現、造形表現、身体表現の領域を総合的にとらえ、一つの作品を作り上げるなかで、保育者に必要な感性や表現技能、創造力、コミュニケーション能力を身につけていくことを目的としています。

この授業では、医療保育科1期生の頃からの大切にしている合言葉があります。それは「最後まであきらめずに作り

続ける」という言葉です。大道具といった可視化できるものから、物語の展開や発声、音楽表現などの可視化できないものまで、「子どもたちに伝えたいテーマをどう表現するか」を軸に、「作っては壊し、また作る」を繰り返していきます。

オペレッタ発表会は、本番の華やかさに注目が行きがちです。しかし、そこに至るまでに、うまく表現できない自分に向き合い、仲間との意見の食い違いを経験し、さまざまな葛藤を乗り越えて作られています。医療保育科としての発表は今回で最後となりますが、こうして努力した先輩の姿は、後輩となる子ども医療福祉学科の学生が引き継いでくれると思います。

最後になりましたが、医療保育科12期生の皆さんには、オペレッタ制作を通じて得た自信と喜び、仲間との絆を一生の宝物にして、保育現場で活躍してほしいと思います。

（医療保育科 入江 慶太）

# 研究発表会・実習事例報告会

## 放射線技術科 第22回 卒業研究発表会

2018年12月1日 (土)

卒業研究の3年生50人は、18の小グループに分かれ、学内や附属病院の担当教員の指導を受けながら、文献調査や実験を4月から進めてきました。そして、終盤の11月頃には、実験データの取りまとめや、抄録とスライドの作成に取り掛かりました。発表会では、発表7分、質疑応答3分の持ち時間で18の口演が行われました。どの口演も練

習の成果を発揮し、会場からの鋭い質問にも上手く対応していました。初めての「研究」は思い通りに進まず、試行錯誤を繰り返したことと思います。就職先での本格的な研究に、今回の経験を生かしてほしいと願っています。  
(放射線技術科 天野 貴司)



## 臨床検査科 第17回 臨床実習研究発表会

2018年12月8日 (土)

臨床検査科の44期生は、本学および川崎学園内の大学ならびに病院において約3か月にわたって研究を行い、その成果を発表しました。新規の測定装置や測定方法の基礎検討、新たな学習ツールの探索や業務改善の取り組みなど、発表テーマは多岐にわたりました。発表会の

運営は学生主体で行い、抄録集の作成や当日の司会・進行、会場係などの役割をクラス全員で分担しました。発表会までの準備は大変だったと思いますが、盛況のうちに終えることができ、良い経験になったと思います。  
(臨床検査科 黒住 菜美)



## 医療介護福祉科 実習事例報告会

2019年1月11日 (金)

学生たちは、2年間の最後の実習で担当した受け持ち利用者について、実習事例の発表会を行いました。利用者の個別ケアに必要な生活リズムや個性の理解、課題の明確化、介護計画の作成、実施、評価、計画の修正という一連の過程が報告されました。スライドや発表に工夫を凝らし、誰が聞いても分かりやすい内容になっていました。

実習施設の指導者の方にもご出席いただき、実習中の学生の様子や学生の介護計画へのご意見、実習後の利用者の様子も伺うことができました。  
報告会を通して、個別ケアを行うことの大切さを改めて実感できたと思います。  
(医療介護福祉科 河邊 聡子)



## 平成30年度 第1回 FD・SD研修会

FD・SD委員会では、より良い教育が実現できるよう、毎年教職員を対象に研修会を開催しています。今年度は、株式会社キャリアプランニングの横山 三樹生先生を講師にお招きし、「コミュニケーションを円滑にする褒め方・叱り方」をテーマに研修を行いました。褒めて育てることが強調される昨今ですが、講演では「褒める」も「叱る」も実は表裏一体で、どちらも相手が納得できモチベーションを高めることができるかが重要であると述べられました。例えば上手な叱り方のポイントは、相手の存在を認めたくえで過去を蒸し返さず行動や事実に対してのみ叱ることです。相手の可能性を広げ、人を育てる「褒め方」「叱り方」について考える良い機会になりました。

(FD・SD委員会 岡田 みどり)



## 日本語に関する取り組み

### 「文章表現」にて ビブリオバトルを開催



看護科1年生の「文章表現」の授業で、ビブリオバトルを行いました。5～6人のグループごとに、一人5分間で本を紹介し、グループのメンバー全員が評価・質疑応答をしたのち、一番読みたくなった本を1冊選びました。チャンプ本に選ばれた学生は、全員の前で発表しました。

学生たちは、本の魅力が伝わるプレゼンテーションができるよう工夫を重ねたようです。初めて話をするメンバーとも楽しくコミュニケーションをとることができ、読んでみたいと思う多くの本を見つけることもできました。本の紹介用に作ったブックポップは、広く皆さんに鑑賞していただくため、図書館に展示しました。



地球温暖化対策ワーキンググループだより

NO. 43

## 川崎エコアクション



### 小さな努力が大きな成果に

地球環境に配慮するエコ活動として、多くの取り組みが行われています。毎日の生活習慣のなかに、あたりまえのようにエコ対策を取り入れている人も多いと思います。まだ実行していない人にも、すぐに実践できる簡単なエコ対策を二つ紹介します。

一つ目は、お茶やコーヒーを飲むときには、マイボトルを利用することです。ペットボトルなどのごみの減量につながりますし、最近では機能性とデザイン性を重視した素敵なボトルも増えています。マイボトルのおしゃれを楽しみましょう。二つ目は、買い物ときはマイバッグを持っていくことです。不要なレジ袋をもらわないことでごみの減量になり、さらに、石油資源の節約にもつながります。

一人ひとりが少し意識を変えるだけで、大きな成果につながります。日ごろの何気ない習慣や行動を見直し、自分のできるところから気軽に、そして楽しみながらエコ対策を始めてみてはいかがでしょうか。

(看護科 阿部 裕美)

## 新任職員紹介

本学の仲間になった職員の方を紹介します。



田中 俊行 事務部次長

12月1日付で大学事務局企画部から異動してまいりました。皆様との交流を通して医療短期大学のことを学び、今までの経験を生かしてお役に立てるよう尽力したいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 2019年度 公開講座

### 第1回【医療介護福祉科】

バーチャル・リアリティ

講座名:「VRから認知症の人の「世界」を体験  
～新たな寄り添い方を見つけよう～」

講師: 居村 貴子 (本学 医療介護福祉科 助教)  
日時: 6月29日(土) 10:00～12:00  
会場: 川崎医科大学総合医療センター 川崎祐宣記念ホール

### 第2回【看護科】

講座名:「足のむくみの原因と対策について」

講師: 坂上 英子 (川崎医科大学附属病院 看護副主任)  
日時: 10月20日(日) 10:00～11:30  
会場: 本学 体育館 102教室

## 学生表彰

日本私立看護系大学協会 会長表彰 榊原 弘子

一般社団法人

日本臨床衛生検査技師会 (日臨技) 学生表彰 会長賞 鷲田 伸吾

日本介護福祉士養成施設協会 会長賞 岡本 優花

## 主要行事 (4月～6月)

### 4月

1日 新入生オリエンテーション (～5)  
3日 入学式  
// 協働会総会 (体育館11:00～)  
5日 新入生健康診断  
8日 看護科3年臨床実習開始 (～9/27)  
13日 川崎学園入学時合同研修

### 5月

8日 医療介護福祉科2年介護実習Ⅲ開始  
(毎週水曜) (～7/10)  
11日 スポーツ大会  
18日 オープンキャンパス

### 6月

1日 学園創立記念日  
4日 医療介護福祉科1年介護実習Ⅰ開始  
(毎週火・水曜) (～7/3)  
16日 3校合同オープンキャンパス  
29日 第1回公開講座

## 川崎医療短期大学広報誌 「若きいのち」(104号)

2019年3月発行

編集発行: 広報誌編集委員会

河邊 聡子 (医療介護福祉科・委員長)  
見尾 久美恵 (一般教養・副委員長)  
森本 寛訓 (一般教養)  
榊本 朋子 (看護科)  
黒住 菜美 (臨床検査科)  
天野 貴司 (放射線技術科)  
重松 孝治 (医療保育科)  
桑田 俊明 (庶務課)  
阿藤 孝子 (庶務課・書記)

写真協力: 二葉写真館

印刷: 友野印刷株式会社

皆さんからのご意見・ご要望をお待ちしております。

〒701-0194 倉敷市松島316  
川崎医療短期大学 広報誌編集委員会  
電話: 086-464-1032 (庶務課)  
Eメール: kouhou@jc.kawasaki-m.ac.jp  
ホームページ: https://j.kawasaki-m.ac.jp

既刊の「若きいのち」は、本学ホームページでご覧いただけます。



## 訃報

川崎医療短期大学 小池 将文 学長 (享年74歳) が2019年2月25日(月)16時20分に逝去いたしました。ここに故人のご冥福をお祈りするとともに謹んで哀悼の意を表します。

## オープンキャンパス 2019年

模擬講義や体験学習、在学生との懇親を通じて、本学の特色を、ぜひ体感してください！事前の参加申し込みは不要です。保護者、教員の皆様もお気軽にお越しください。なお、詳細はホームページでお知らせします。

※3校合同オープンキャンパスは、本学と川崎医療福祉大学、川崎リハビリテーション学院の3校が協同開催します。3校合同開催時の受付は、川崎医療福祉大学で行います。

開催日時	備考
3月17日(日) 13:00～16:00	3校合同オープンキャンパス
5月18日(土) 13:00～16:00	本学オープンキャンパス
6月16日(日) 10:00～15:00 (予定)	3校合同オープンキャンパス
7月21日(日) 10:00～15:00 (予定)	3校合同オープンキャンパス
8月17日(土) 13:00～16:00	本学オープンキャンパス

＼待ってるよ！／



なお、本学の学校見学は随時受け付けています。その他詳細は、教務課までお問い合わせください。  
【TEL】086-464-1033 (受付/平日 8:30～17:00、土曜 8:30～12:00)

### 2019年度 推薦入試後期結果

試験日:【A日程】11月25日(日)  
【B日程】11月26日(月)  
合格発表:12月1日(土)

	看護科		医療介護福祉科		計
	A	B	A	B	
募集人員(人)	15		5		20
志願者数(人)	65	55	1	0	121
志願倍率(倍)	8.0		0.2		6.1 <sup>(※1)</sup>
合格者数(人)	52	46	1	0	99

### 2019年度 一般入試前期結果

試験日:【A日程】1月30日(水)  
【B日程】1月31日(木)  
合格発表:2月8日(金)

	看護科		医療介護福祉科		計
	A	B	A	B	
募集人員(人)	30		8		38
志願者数(人)	59	44	1	0	104
志願倍率(倍)	3.4		0.1		2.7
合格者数(人)	42	31	1	0	74

### 2019年度 センター試験利用入試結果

試験日:1月30日(水)・1月31日(木)  
合格発表:2月8日(金)

	看護科	医療介護福祉科	計
募集人員(人)	3	2	5
志願者数(人)	17	0	17
志願倍率(倍)	5.7	0	3.4 <sup>(※1)</sup>
合格者数(人)	3	0	3

2020年度の入試概要は6月以降に本学ホームページで公表します。詳細については、入学試験要項でご確認ください。

### 入試に関する問合せ先

【教務課】TEL:086-464-1033  
Eメール: nyushi@jc.kawasaki-m.ac.jp

## 編集後記

春色の和やかな季節となりました。「平成」もあと1カ月余りで新しい年号に変わりますが、この春は、本学にとっても2学科体制の開始という大きな節目を迎えることになります。

今回の特集では、教職員による座談会を企画しました。半世紀近い「医療短大」の歴史に関わってきた思い出や、これからの本学に対する期待と想いを語り合っていました。

5学科揃っての「若きいのち」の編集はこれが最後となります。学内外から多くの方々の支援を得て、英知と熱意を傾けながら活動を続けてまいりました。2学科体制となりましても、本誌の発刊を温かく見守ってくださいますよう、今後ともよろしくお願い申し上げます。

(庶務課 桑田 俊明)